

館山市のまちづくり 団体ヒアリング実施結果

分野	意見・提案・要望
子育て・福祉・医療	<p>子育て</p> <p>元気な広場は子育て中の母親の悩みを聞く場でもある。多様な機能を持たせて活用したい。 看護師の不足が地域医療に与える影響は大きい。</p> <p>子育てと仕事の両立が難しく、24時間保育があれば、利用したいという声は大きい(看護師)。 観光業では、女性の人材確保が困難。延長保育や学童保育をもっと充実させてほしい。</p>
	<p>社会福祉</p> <p>交通事故や連れ去り、いじめといった社会が抱える現代的課題に対して補助していきたい。</p>
	<p>高齢者福祉</p> <p>高齢者のゴミ出しや買物支援など、臨時的、短時間の軽作業をシルバーで担うことは可能。 高齢者にとって、病院や買い物場所への送迎のニーズは高い。 介護系の資格を持っているシルバー人材センターの会員を活用できないか。</p>
教育・文化	<p>教育</p> <p>4年前から中3「育児」授業に、元気な広場利用者が参加。ふれあいを通じた子育て教育が大切。 子どもに市の良さを理解させる教育は大事であり、何か協力したい。 市内の学校を対象に、学校教育での自然教育プログラムを実施できると良い。</p>
	<p>文化</p> <p>子どもたちに対し、地域の歴史に目を向ける機会の提供が、市として弱い。</p>
産業・経済	<p>農業</p> <p>レタスのように、米を含めた農作物を、市と連携して積極的にPRしていきたい。 館山市でもコントラクター事業（農協による収穫、肥料散布等）への支援を検討できないか。 那古船形では有害鳥獣の被害が大きい。近隣市町と連携して対策を強化してほしい。 農家の高齢化は、10年後さらに厳しい状態になると予想される。</p>
	<p>漁業</p> <p>若者の漁師を増やすためにも、館山湾内の磯枯れ対策が必要。 ヒラメ・鯛・車海老の放流に補助金を出し、棧橋から放流してみてもどうか。 稚魚の放流を地域の子どもたちとやるのは面白いと思う。 漁業者と連携した水産資源の活用（ひじき狩り等）を検討・実施していきたい。 海を利用し、アワビの養殖を市漁連とともに取り組みたい。</p>
	<p>商工業</p> <p>中心市街地の活性化が積年の課題だが、良い解決策が見つからない。 工業の分野では、事業後継者問題への対策強化が必要。</p>
	<p>雇用</p> <p>別荘や空き家の草刈り・管理の依頼が増加している。 行政と連携して、景観維持のため耕作放棄地の草刈りを担いたい。 市の事務仕事の一部を外注し、雇用機会を創出してはどうか。 農作業のピーク時や出荷作業等、高齢者の負担になる部分で臨時的な雇用創出が可能では。 雇用のニーズは十分にあるが、業種に偏りがある。医療・介護・観光分野の求人が多い。 これからは安定した雇用、賃金の向上に取り組まなければならない。 行政の力を借りて「小さな起業」を増やすこと、「副業」を増やすことが有効と考える。 仕事の一部を切り取って、働きたい人とマッチングする仕組みはできないか。</p>
	<p>移住定住</p> <p>当初は退職者向けの支援を想定していたが、実際は、子育て世代からの問合せが圧倒的に多い。 館山の売りは“ライフスタイル”で、最近ライフスタイルに敏感な移住者が非常に増えている。</p>
	<p>観光</p> <p>8月のアクアスロンが好評で、ふれあい市場の利用等、漁協の振興につながっている。 船形漁港を使用する広範囲（新井海岸～岩井）のシーカヤック大会の開催を検討中。 外部にワンストップで案内できる施設が無く、合宿誘致がうまくいっていない。</p>

館山市のまちづくり 団体ヒアリング実施結果

分野	意見・提案・要望
観光	<p>体験交流協会と連携し、修学旅行の誘致等、体験ツアーを強化していきたい。</p> <p>インバウンドを推進し、成田空港からの誘客を図っていきたい。</p> <p>今後の観光は、自転車とウォーキングで売っていきたい。</p> <p>休憩スペースが少ない。観光客に滞留してもらえらる仕組み作りが必要。</p> <p>市民には観光地であるという自覚が足りない。市全体で歓迎ムードを作っていくべき。</p> <p>一日限りの入漁権があれば、観光の目玉になるのではないかな。</p> <p>食は地域振興につながるもの。</p>
基盤整備	<p>再度、特急の停車駅としてもらえるよう、中心となって交渉していきたい。</p> <p>特急が減ったことで、君津・鴨川間に観光列車を作る方向性でも良いのではないかな。</p> <p>観光の目玉として、電車で自転車が乗せられるような交渉をしていくべき。</p> <p>循環急行を作ったり、普通車にグリーン車を創設するといった交渉はできないものかな。</p>
バス	<p>観光客が利用しやすいようなバスが無い。ICTを活用したオンデマンドバスを展開してほしい。</p>
環境共生	<p>沖ノ島は大切な地域資源だが、保全のための仕組みが確立されていないのは残念。</p> <p>自然を破壊されないようにルールや取組を明確化し、決まりを守る人を誘客すれば良い。</p> <p>行政主体で、自然に対する地域共通のビジョンを持ち、ブランド化に取り組むべき。</p>
市民参加・行政運営	<p>婚活パーティーや移住の提案には、行政のバックアップがあると信頼が高まる。</p> <p>当市の“まちづくり”を行う男女を募集し、共同作業を行う新しい形の婚活事業の実施はどうか。</p> <p>観光資源が多くあるものの、情報発信や観光の方向性がバラバラである。</p> <p>観光の目玉、季節ごとの「旬」を統一して、観光業者も市民も一丸となって情報発信すべき。</p> <p>SNSやメルマガ等の無料の宣伝媒体でも、市外へのアピールは十分に可能である。</p> <p>“館山はオシャレ”というイメージが浸透し始めている。今後も積極的な市の情報発信が必要。</p> <p>市民の自主的な地域活動に対して補助していきたい（登下校の見守りなど）。</p> <p>まちづくりは、他ではできないことを高いレベルで行わないと他の自治体との差がつかない。</p> <p>中途半端では結果が出ない。日本一を目指し、日本一を作ることが一番のプロモーション。</p> <p>リスクをとらないのが最大のリスク。最初にやろうとしたところが先進地になる。</p> <p>素材を磨いて光るものは資源になる。他に無いもの、そこでなければ守れないものに価値がある。</p> <p>差の無いところに価値は生まれない。槇の木やウミホテルが一番になれる。</p> <p>協働によって市民に誇りと愛着を持ってもらうには、市民が関わって一番を目指す活動が必要。</p> <p>Iターン者のアイデアをまちづくりにうまく活用していくべき。</p> <p>“地域の幸せ”の軸を作れば、問題が起きた際、そこに立ち返って解決の方向性を決められる。</p> <p>館山の魅力を発信するガイド活動団体の横のつながりが少ない。団体どうしの交流の場が必要。</p> <p>各団体のアイデアを組み合わせれば良いものができる。</p> <p>自治会等、地域のコミュニティの中で地域を好きになる活動を実施してはどうか。</p> <p>地域で共通の価値観を作ることが大事。</p> <p>土地の風土に合ったものを見つけることが、地域資源の掘り起こしと捉えている。</p> <p>小中高校生をもっとまちづくりに参加させられる仕組みが必要。</p>